

平成28年度

# 北海道高等学校教育研究大会教科別集会

## 情報部会

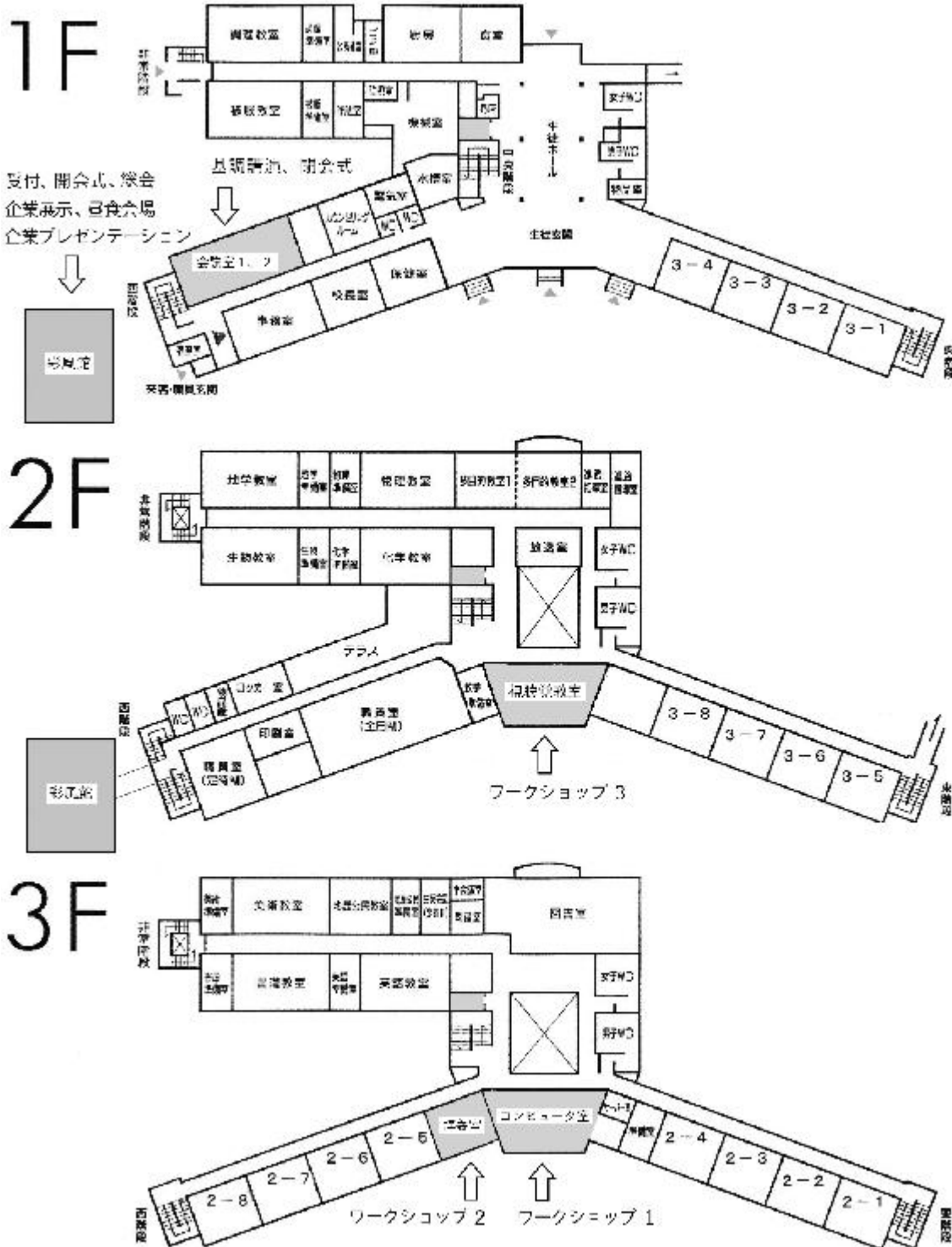
北海道札幌北高等学校 平成29年1月12日(木)

1	日程・時程	.....	1
2	会場平面図		
3	企業展示・企業プレゼンテーション進行表	.....	2
4	総会		
	(4-0) 総会次第	.....	3
	(4-1-1) 平成27年度 一般会計収支決算	.....	4
	(4-1-2) 平成27年度 特別会計収支決算	.....	5
	(4-1-3) 平成27年度 積立会計収支決算	.....	6
	(4-2) 平成28年度 役員構成	.....	7
	(4-3-1) 研究紀要		
	(4-3-2) キャラバン研究会		
	(4-3-3) 平成28年度高教研情報部会アンケート集計結果報告	.....	9
	(4-3-4) 全国情報教育研究大会参加報告	.....	13
	(4-4-1) 平成28年度 一般会計予算	.....	17
	(4-4-2) 平成28年度 特別会計予算		
	(4-4-3) 平成28年度 積立会計予算		
	(4-4-4) 平成28年度 一般会計中間報告	.....	16
	(4-4-5) 平成28年度 特別会計中間報告		
	(4-4-6) 平成28年度 積立会計中間報告		
	(4-5) 平成29年度の研究テーマ	.....	17
	(4-6-1) 研究紀要	.....	19
	(4-6-2) キャラバン研究会		
	(4-6-3) 高教研情報部会アンケート		
	(4-6-4) 全国情報教育研究大会参加派遣		
	(4-7-1) 平成29年度 一般会計予算案	.....	20
	(4-7-2) 平成29年度 特別会計予算案		
	(4-7-3) 平成29年度 積立会計予算案		
5	その他		
	(5-1) 北海道高等学校教育研究会情報部会規約	.....	22
	(5-2) 参加者名簿	.....	24
	(5-3) 懇親会のご案内	.....	25
6	アンケート用紙	.....	26
	(ご記入のうえ、閉会式後に切り取ってご提出ください)		

# 1 日程・時程

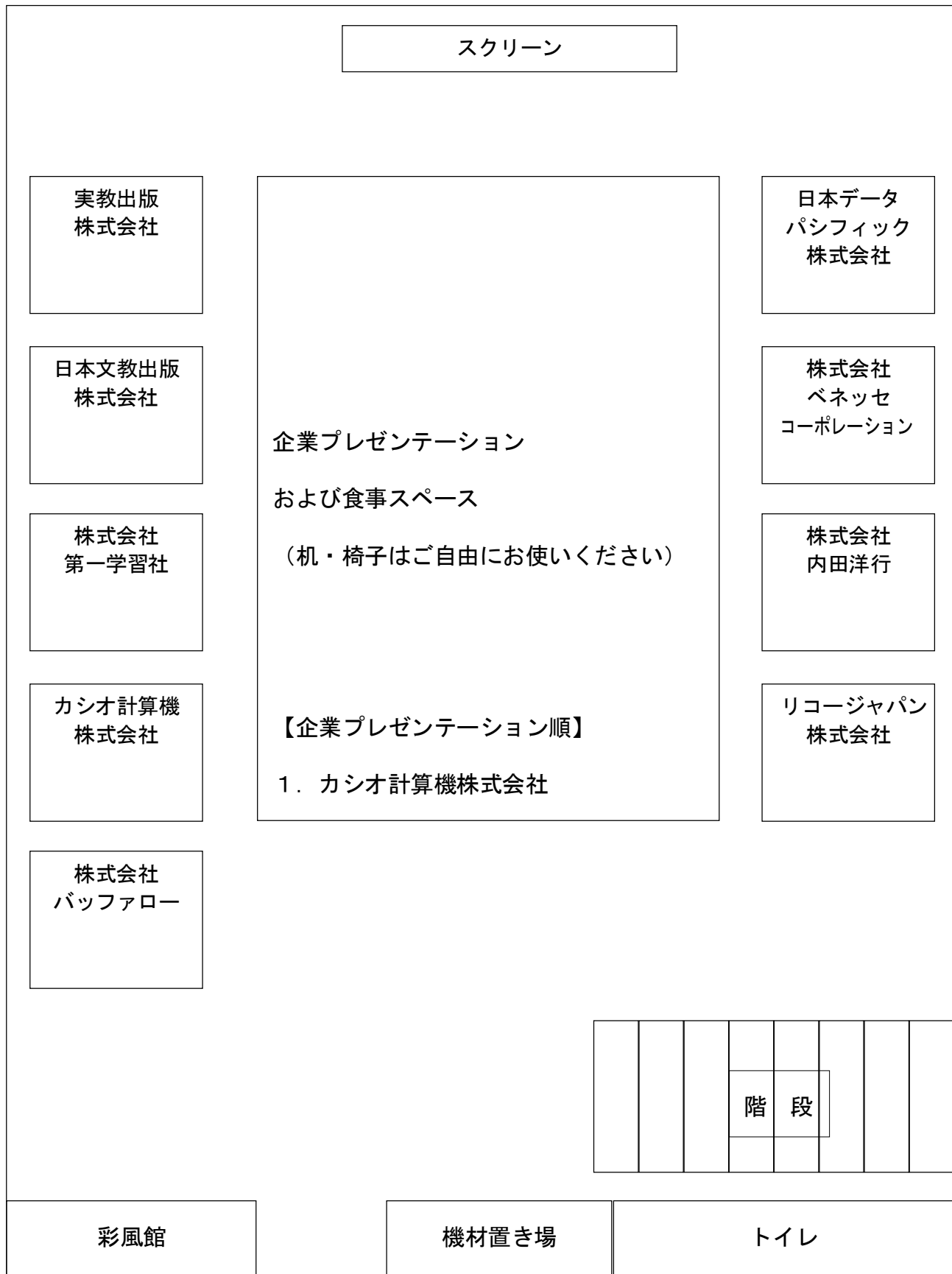
8:30~ 9:00	受付
9:00~ 9:30	開会式・総会
9:40~11:40	ワークショップ
11:40~12:00	昼食・休憩
12:30~13:20	企業プレゼンテーション・企業展示
13:30~15:30	基調講演
15:30~16:00	総会・閉会式

# 2 会場平面図



### 3 企業展示・企業プレゼンテーション進行表

#### 彩風館 1階 会場図



## 4 総会

---

### 4-0 総会次第

#### \*報告事項

- 1 平成27年度 収支決算
  - ・平成27年度 収支決算報告（一般・特別・積立）
  - ・平成27年度 会計監査報告（一般・特別・積立）
- 2 平成28年度 役員構成
  - ・役員構成
- 3 平成28年度 事業報告
  - ・研究紀要
  - ・キャラバン研究会
  - ・高教研情報部会アンケート集計結果報告
  - ・全国情報研究大会参加報告
- 4 平成28年度 会計執行状況

#### \*審議事項

- 5 平成29年度 研究テーマ
- 6 平成29年度 事業案
  - ・研究紀要
  - ・キャラバン研究会
  - ・高教研情報部会アンケート
  - ・全国情報研究大会参加派遣
- 7 平成29年度 予算案（一般・特別・積立）

#### \*その他

- 8 その他

4-1-1 平成27年度 一般会計収支決算

(様式 教-7-3)

平成27年度 会計収支決算書 (研究調査費)

平成28年1月28日

収入の部

北海道高等学校教育研究会 情報部会

科 目	予算額	決算額	増 減 (△)	摘 要
繰 越 金	250,000	250,146	146	
本 部 交 付 金	228,430	64,950	△ 163,480	
雑 収 入	0	51	51	利息
合 計	478,430	315,147	163,283	

支出の部

科 目	予算額	決算額	増 減 (△)	摘 要
講師旅費・謝金	180,000	0	△ 180,000	
事 業 費	50,000	1,944	△ 48,056	ファイル代
会 場 費	0	0	0	札幌北高彩風館
運 営 費	50,000	13,550	△ 36,450	役員昼食、飲み物等
研究調査費	50,000	0	△ 50,000	
備品運搬費	30,000	0	△ 30,000	
事務通信費	10,000	2,542	△ 7,458	郵送料
備品購入費	25,000	0	△ 25,000	
予 備 費	83,430	0	△ 83,430	
合 計	478,430	18,036	△ 460,394	

(収入額)

¥315,147

(支出額)

¥18,036

(残高)

¥297,111 [平成28年度へ繰越]

平成27年度会計収支について、監査の結果、適正であることを認める。

平成28年1月28日

監査(監事)

今井 豊章

川村 雅人



※注

- ①収入・支出科目にない科目がありましたら適宜設けてください。  
支出科目例—研究助成金、会議費、印刷費、消耗品費、通信費、予備費、運営費等。  
②領収書(原本)などの証拠書は、各地区支部、各教科部会で保存してください。  
本部事務局から提示を求められたら提出してください。

4-1-2 平成27年度 特別会計収支決算

(様式 教-7-3)

平成27年度 特別会計収支決算書

収入の部

北海道高等学校教育研究会 情報部会

科 目	予算額	決算額	増 減 ( △ )	摘 要
繰 越 金	200,000	229,567	29,567	
企業広告協賛金	140,000	120,000	△ 20,000	
雑 収 入	0	0	0	
合 計	340,000	349,567	9,567	

支出の部

科 目	予算額	決算額	増 減 ( △ )	摘 要
運 営 費	80,000	25,329	△ 54,671	【札幌キャラバン】 ¥19,275 【新ひだかキャラバン】 ¥3,776 【小樽キャラバン】 ¥2,278
役 務 費	140,000	75,238	△ 64,762	【札幌キャラバン】 ¥24,145 【新ひだかキャラバン】 ¥48,363 【小樽キャラバン】 ¥2,730
積 立 会 計	100,000	100,000	0	
予 備 費	20,000	0	△ 20,000	
合 計	340,000	200,567	△ 139,433	

収入額 349,567      支出額 200,567      残高 = 149,000

[平成28年度へ繰越]

平成27年度会計収支について、監査の結果、適正であることを認める。

平成28年1月28日

監査 (監事)

今井 豊章

川村 雅人



4-1-3 平成27年度 積立会計収支決算

平成27年度 積立会計収支決算書

収入の部 北海道高等学校教育研究会 情報部会

科 目	収 入 額	摘 要
繰 越 金	158,640	
積 立 金	100,000	特別会計より
雑 収 入	0	
合 計	258,640	

支出の部

科 目	支 出 額	摘 要
運 営 費	0	
役 務 費	106,230	高情研全国大会派遣旅費
事 務 通 信 費	486	振込手数料
予 備 費	0	
合 計	106,716	

収入額                      支出額                      残高  
 258,640      —      106,716      =      151,924

[平成28年度へ繰越]

平成27年度会計収支について、監査の結果、適正であることを認める。

平成28年1月28日

監査（監事）

今井 豊章

川村 雅人



## 4-2 平成28年度 役員構成

01	部会長	毛内 顕史	北海道札幌東豊高等学校	
02	副部会長	渡邊 周一	北海道札幌北高等学校	
03	〃	古屋 順一	北海道旭川工業高等学校	
04	監事	今井 豊章	札幌大谷高等学校	監査
05	〃	川村 雅人	北海道札幌あすかぜ高等学校	監査
06	幹事	池田 弘樹	北海道滝川高等学校	
07	〃	梅田 充	北海道札幌英藍高等学校	会計、キャラバン研究会(サマースクール)
08	〃	奥村 稔	北海道札幌北高等学校	キャラバン研究会(サマースクール)
09	〃	鎌田 亮樹	旭川藤女子高等学校	キャラバン研究会
10	〃	佐々木 寛	北海道小樽潮陵高等学校	情報部会アンケート
11	〃	津端 公彦	北海道倶知安高等学校	キャラバン研究会
12	〃	杉本 式史	北海道札幌新川高等学校	情報教員養成プロジェクト
13	〃	古澤 正三	札幌北斗高等学校	
14	〃	前田健太郎	北海道帯広緑陽高等学校	キャラバン研究会(サマースクール)
15	〃	伊藤 崇	北海道伊達高等学校	キャラバン研究会
16	〃	金谷梅太郎	北海道鹿追高等学校	
17	事務局担当	鶴間 伸一	北海道札幌英藍高等学校	運営・渉外/基調講演/研究紀要(募集)/情報教員養成プロジェクト/キャラバン研究会(サマースクール)/

### 4-3-1 研究紀要

例年通り、研究紀要への執筆者を choice ウェブページおよび choice メーリングリストを通して募りましたが、今年度は執筆の希望はありませんでした。

来年度も執筆の募集を行います。日頃の研究の成果を研究紀要としてまとめてみませんか。執筆を希望される方は事務局杉本(札幌新川高等学校)までご連絡ください。

### 4-3-2 キャラバン研究会

キャラバン研究会は、他教科と比べて歴史の浅い情報科が、積み重ねた実践を互いに共有し合うことで、生徒の学習意欲を高めながら全道各地で質の高い教育活動ができることを目指し、実務的な研修を行うものです。

学校事情や移動距離などにより1月の高教研情報部会の研究集会に参加できない先生方や、都市近郊から離れた土地で情報科を一人で担当して悩みを抱えている先生方などが、少しでも負担を感じることなく研修に参加する機会を設けるために始めました。

キャラバン研究会は、今までに31回の開催を経て、様々なフィードバックを得て少しずつ進化し続けています。教育実践の発表だけでなく、ワークショップや懇親会を通じて、多くの仲間達との出会いの場としても大きな位置を占めるようになってきました。これからも各地の学校を会場としてお借りして、より多くの先生方と交流できる機会を持ちたいと願っております。

キャラバン研究会は、皆様からのご要望があれば地域の研究会と共同開催させていただくことも、単独開催させていただくことも可能です。全道各地を巡回することも目標の一つとしています。学校事情等で1月の研究大会に参加が難しい地域での研究会開催や、地区の研究会の活性化にもお役に立てると思います。ご要望があればお応えします。高教研情報部会事務局担当鶴間(neo\_turuq@yahoo.co.jp)までご連絡ください。



## キャラバン研究会 昨年度までの実績

	A 地区 石狩・空知・後志	B 地区 渡島・桧山 胆振・日高	C 地区 上川・留萌・宗谷	D 地区 オホーツク・十勝 釧路・根室
平成 18 (2006) 年度		01 伊達 (09 月 16 日)		
平成 19 (2007) 年度	02 倶知安 (10 月 27 日) 25 名		03 旭川藤 (2 月 23 日) 22 名	
平成 20 (2008) 年度		04 函館西 (10 月 18 日) 17 名		05 帯広三条 (10 月 25 日) 26 名
平成 21 (2009) 年度	06 岩見沢緑陵 (8 月 6 日,7 日) 40 名		08 旭川藤 (2 月 13 日) 13 名	07 釧路江南 (11 月 13 日) 31 名
平成 22 (2010) 年度	09 岩見沢緑陵 (8 月 5 日,6 日) 21 名			10 紋別 (10 月 16 日) 17 名
平成 23 (2011) 年度	11 岩見沢緑陵 (8 月 5 日,6 日) 22 名 13 小樽工業 (11 月 21 日) 19 名			12 音更 (10 月 28 日) 11 名
平成 24 (2012) 年度	14 岩見沢緑陵 (8 月 7 日,8 日) 17 小樽工業 (11 月 22 日) 20 名	15 函館西 (10 月 6 日) 12 名 16 室蘭栄 (10 月 12 日) 22 名		
平成 25 (2013) 年度	18 札幌北 (8 月 7 日,8 日) 29 名 19 滝川 (11 月 8 日) 17 名 20 岩内 (11 月 14 日) 11 名		21 旭川藤 (2 月 8 日) 12 名	
平成 26 (2014) 年度	22 札幌北 (8 月 4 日,5 日) 20 名 23 岩内 (11 月 12 日) 20 名		25 旭川藤(2 月 7 日)	24 阿寒(12 月 18 日) * 悪天候のため中止
平成 27 (2015) 年度	26 札幌北 (8 月 4,5 日) 19 名 28 小樽桜陽 (11 月 13 日) 12 名	27 静内農業 (10 月 30 日) 14 名		

## 平成 28 (2016) 年度の活動

第 29 回キャラバン研究会 in 札幌 (北海道札幌北高等学校 2016 年 8 月 3 日、4 日)

第 30 回キャラバン研究会 in 小樽 (北海道小樽桜陽高等学校 2016 年 11 月 11 日)

第 31 回キャラバン研究会 in 伊達 (北海道伊達高等学校 2016 年 12 月 9 日)

### 4-3-3 平成28年度高教研情報部会アンケート集計結果報告

この度は、お忙しい時期にもかかわらず、情報部会アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケートの集計ができましたので、ご報告致します。なお、自由記述の回答に関しては、各校の様子ができるだけダイレクトに伝わるよう、ほぼ原文の形で載せさせていただきます。多くの先生方のご参考になれば幸いです。

#### 1. 学校名 2. 管内について

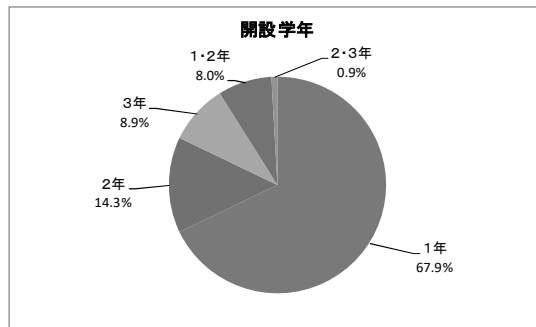
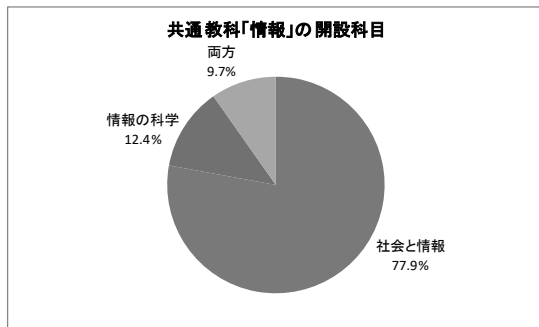
全道各地 108 校、115 名の先生方からご回答をいただきました。

#### 3. 共通教科「情報」の開設科目

開設科目	校数	割合
社会と情報	88	77.9%
情報の科学	14	12.4%
両方	11	9.7%
合計	113	100.0%

#### 4. 上記3の開設学年

開設学年	校数	割合
1年	76	67.9%
2年	16	14.3%
3年	10	8.9%
1・2年	9	8.0%
2・3年	1	0.9%



#### 5. 上記3以外の開設科目

- ・「農業情報処理(2年)」「情報実習 A(2年)」「情報実習 A(3年)」「情報実習 B(3年)」
- ・ 2年 ネットワークシステム(専門教科情報) 3年 Web デザイン(学校設定科目)
- ・「情報産業と社会」、「情報の表現と管理」、「情報デザイン」
- ・「プログラミング入門」、「デジタル映像入門」
- ・「表現メディアの編集と表現」(3年選択)
- ・ 学校設定科目: コンピュータデザイン
- ・「表現メディアの編集と表現」 ・「情報基礎」(2・3年) ・「情報探究」(3年選択)
- ・「情報演習」(3年選択) ・「情報の表現と管理」(3年選択) ・「情報活用」

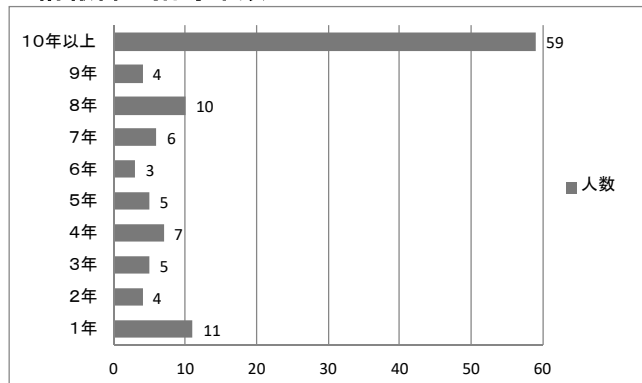
#### 6. 職

職	人数
教諭	108
期限付き教諭	3
その他	3

#### 7. 専任かどうか

専・兼任	人数
「情報」専任	30
他教科と兼任	85

#### 8. 情報科の指導年数



### 9. 教員採用時の指導教科

教科	人数
国語	2
公民	1
数学	15
理科	6
外国語	2
情報	1
農業	2
商業	79
水産	1
地歴・商業	2
数学・情報	1
期限付き	3

### 10. 今後主とする指導教科

教科	人数
国語	1
地理歴史	1
公民	1
数学	9
理科	3
保健体育	1
外国語	1
情報	38
農業	1
商業	37
水産	1
情報・商業	19
公民・情報・商業	1

### 11. 高教研研究集会への参加状況

研究集会への参加	人数
(情報で)ほとんど毎年参加している	13
(情報以外の教科で)ほとんど毎年参加している	3
(情報で)ときどき参加している	12
(情報以外の教科で)ときどき参加している	20
めったに参加しない	34
参加したことがない	33

### 12. 高教研情報部会のメーリングリストについて

メーリングリスト	人数
すでに参加している	32
知っているが参加はしていない	45
メーリングリストの存在を知らなかった	30
現在は参加していないが、将来参加したいと思っている	7

### 13. 情報科授業の指導内容や特色

- ・PC 教室内にサーバを設置することで、比較的容易に実習環境を構築できるようにしてある。wikiによる生徒間の意見交換や twitter クローン、迷惑メールなどについて実体験させるようにしている。
- ・基本的なパソコン操作の習得と情報モラル
- ・アカデミック・リテラシーの涵養を意識した指導内容の精選 ・学校向け SNS を活用した授業展開 ・「新聞」及び新聞記事データベースの活用
- ・定時制課程なので、ワープロとExcelの2級までとパワーポイントを触れる程度までです。
- ・ワープロ・表計算・プレゼンテーション・ホームページ等
- ・情報モラルを中心に授業を進めています。
- ・キャリア教育と連動した調べ学習。基礎基本をしっかりと教える。
- ・問題解決の実践として、見学旅行を利用している。解決案の実行と検証については、事後に新聞形式でまとめている。
- ・フリーソフト FreeMind による問題解決 PukiWiki による共同作業からプレゼンテーション クラスアンケートから統計分析を行い、プレゼン、レポートまで JavaScript や Python によるアルゴリズムとプログラミング
- ・モラルや基礎知識などの座学 簡単にワードエクセル プレゼンテーション
- ・教科書等に沿った形で展開していますので、これといった特色は

- ありません。
- ・実習中心。
- ・①情報モラル(座学) ②情報の表現(座学) ③Word 実習 ④ Excel 実習 ④PowerPoint 実習
- ・情報モラル教育を厚く行っています。
- ・コースにより教材を変えて、スキルに合わせた授業を展開している
- ・報告課題(教科書の内容)の解説 情報実習(2時間連続、完結)
- ・毎時間、最新の情報に関するニュースを1つ取り上げ、それをきっかけに教科書の内容を指導するようにしています。
- ・教科書(実教出版)を中心にパソコン操作(タイピング)やアプリケーションソフト(ワープロ、表計算)の基本的操作を学習する。
- ・情報機器の基本操作と活用、情報モラル
- ・「情報モラル」を年度初めに集中的に実施。
- ・教科書の学習内容を基本としている。それ以外にはP検を利用した操作技術の定着指導を20～30時間、プログラミングの学習を3～4時間導入している。
- ・アクティブラーニングと校内のネットワーク環境を使いこなせるようにしている。
- ・資格取得に向けた、実技中心の授業。
- ・2・3年「情報基礎」ではビジネス文書検定・情報処理検定の取得を目指し、就職後もパソコン操作に困らないよう技術の修得を目的と

している。

- ・日本情報処理検定協会の検定とのリンク(学校外の学修として単位認定)
- ・アプリケーションの操作を向上するだけでなく、なるべく教科書の内容を主体的に学んでもらえるように工夫している。
- ・教科書の学習のほか、今年度から、全商ではなく、日本情報処理検定協会のワープロ検定に毎年取り組んでいる。
- ・タイピング 情報モラル オフィス系ソフト 自作 PC 情報に関する基本的な知識 etc
- ・コンピュータを扱う上での基礎・基本的な知識と操作技術。情報モラル・マナーなど。
- ・題材を観光にしている教材が多い。
- ・モラル教育に力を入れています。それ以外は浅く広く情報教育。
- ・特になし、教科書を中心に勉強で word、excel をやる程度。
- ・情報機器・アプリケーションの基本操作とマナー。
- ・3年次の情報の表現と管理で3DCGのプログラミングを行っている。
- ・コンピュータ科学をわかりやすく、楽しい授業を心がけている。
- ・実習と座学の半々の授業を行っております。実習はワープロ・表計算・ホームページ作成・アニメーションの作成を行い、座学授業については、情報における基礎知識、モラル、ネットワーク等の教科書の内容を中心に行っております。
- ・情報の授業を通してオフィスなどソフトの使い方を教えており、その延長上で検定を取得させている。具体的には、ワード(ワープロ検定)・エクセル(情報処理検定)また、パワーポイントを利用してテーマを設定し調査・研究・発表を行っている。
- ・2年時の「情報処理」履修のため、エクセルの基本操作の習熟を意識している。
- ・情報モラルやワープロ・表計算・プレゼンテーション等のソフトの使用方法について基本的技術の修得。
- ・文書処理検定(全経) 情報処理検定(日情検)
- ・情報系の資格取得に向けて実習を主とした授業をしています。
- ・情報発信という見地から、web 作成とプレゼンを授業内でさせている。他人への情報伝達のポイントは「わかりやすさ」を基本とするよう指示し、評価の対象にもしている。
- ・ワード・パワーポイントのソフトを使い、検定を取得させている。その他に、習得したソフトを利用し、テーマを決めて調査・研究・発表を行っている。
- ・ワード・エクセル・パワーポイントなどを教えている。ワープロ検定や情報処理検定で検定取得を勧めている。
- ・情報モラル、ワープロソフト、表計算ソフトの基本操作と活用
- ・情報モラルに関する学習を行う中で、身近な事例を取り上げ、それについてグループディスカッションを行うなど、トラブルの未然防止についての理解を深めている。実習の成果を発表する場として、プレゼンテーション能力の育成に力を入れている。
- ・パワーポイントを用いたプレゼン形式の授業で、単元によりグループ学習や発表の機会を設けている。
- ・教科書の内容を満遍なく指導する。情報モラル及びアプリケーションソフトウェアも併せて指導する。
- ・情報処理で代替のため、ほとんどが実務における処理やその知識を習得するものになっている。

- ・実習と座学を適度に採用し、生徒の興味関心を配慮しながら授業を行っている。
- ・本校は一間口で少人数の学校で、学力的にも低い学校です。情報の基本的な分野や実技としては多くのソフトが操作できるように指導しています。
- ・タイピング、ワープロ、情報検索等の実習。著作権、個人情報保護、情報のルール・マナー等の学習。
- ・中間考査までじっくり座学で勉強、その後、実習や座学を含めて指導しています。
- ・学校紹介プレゼンテーション作成
- ・学校設定科目は、総合学科として、情報処理能力に特化した生徒の育成のため、Excel を中心とした指導をしている。
- ・教科書に沿った(利用した)学習と、プレゼンテーション・ワード・エクセル・動画編集などの実習を半々ずつくらい。
- ・調べ学習や学校行事(宿泊研修)の報告など、プレゼンテーションの機会を増やした発表活動やコンピュータを活用した実習を中心に授業を実施している。個々のスキルの差が大きく、アプリケーションを活用した文書の作成や表計算を使ったデータ処理などの演習を反復演習している。
- ・知識と実技をバランス良く配置
- ・実習助手なし。AランクからMランクの生徒が混在する。年齢はばらばら。発達障害者、車いす障害者の生徒も複数存在する。
- ・スマホや自宅パソコンの使用マナー・ルールについて ・個人情報保護について ・ワード・エクセル・パワーポイントの効率的な使用方法について
- ・Word・Excel・PowerPoint・情報モラルの4つの分野に関して、1年間を通して指導しています。
- ・1年次前期では、情報モラルを中心に座学を実施し、後期はパソコンの基本操作を中心に実施している。
- ・「学び合い」の手法を取り入れた授業。
- ・商業科目との連携
- ・複数教員での実施
- ・情報モラルを中心に取扱い指導している
- ・情報モラル ワード、エクセル、パワーポイントの初歩的な操作方法
- ・教科書を中心とした内容。2学期制で前期集中授業。
- ・実技6割、座学4割程度 実技では、:word、Excel、PowerPoint など
- ・北海道情報大学と連携している教科がある
- ・今年度、着任したばかりなので、ただ今勉強中です。
- ・商業計算(比率や割合)等を一部取り入れている。
- ・情報モラルの育成を目指す中で、できる限り考えさせる時間を多くとるように心掛けています
- ・近隣校と異なり、「情報の科学」を展開している。情報の科学的な理解および問題解決への活用を目標として授業展開を行っている。
- ・教科書と実技の両方を取り入れる
- ・情報の科学 1 学年 2 単位 7クラス
- ・情報リテラシーの修得を第一の目標として指導している。
- ・ワークブックによる座学と実技演習、情報処理と併せた実技指導、商業科教員とのチームティーチング
- ・特に大きな特色はありません。授業を前半にわけ、前半を教科書をベースに授業を進め、後半はPCをつかい実技を中心に展開

しています。

- ・商業系の検定に関係なく(科目の中で受検の斡旋をしない)、教科書と副教材(学習ノート)のみで授業展開(座学・実習)している。チームティーチングを実施している。
- ・利尻島の観光スポットを調査し、プレゼンテーション発表会を実施している。
- ・教科書中心の座学とパソコンを使用しワード、エクセルの基本操作を行っています。
- ・Word や Excel などの実技中心に取り組んでいる。また、教科書を使って座学も取り組んでいる。
- ・板書の代わりに教員機画面をスクリーンに投影し、ワープロソフトでノートを作成させています。また、考査ではA4用紙1枚のみを持ちこみ可とし資料を作成させて考査に臨ませています。
- ・総合的学習の時間と合わせて、問題解決型の学習時間を設定している。

#### 14. 情報の授業を担当する上での悩み等

- ・実習しながらの週 2 時間は時間的に余裕がない。
- ・意外とワード・エクセルの操作がわからないので、この習得に時間が使われてしまうこと。スマホやタブレットの普及率が進むと逆にキーボードなどの操作が遅い。
- ・実施時数不足
- ・四則演算が苦手な生徒が時々いる。九九ができない生徒も2～3年に1度くらい割で入学してくる。基礎学力が厳しい生徒を指導するのは、かなり手こずります。
- ・情報教員主に一人で行っているため、出張等で不在の振替等で授業時数が多く大変である。
- ・専門科目ではないので、表面的な知識しかありません。教科として情報を実施していくのであれば、各学校に1人ずつ専門の先生を配置すべきだと考えます。
- ・情報モラル指導の充実。情報機器の老朽化。
- ・授業形態のあり方について(知識教授と活用のバランス、活用における環境整備)
- ・他教科とのバランス
- ・座学について生徒があまり乗ってこない
- ・授業について
- ・本来の内容と、要請されるものとのギャップ。
- ・数学科との兼ね合い 時間講師枠の確保
- ・学校に1人しかいないため、相談できないことや、情報機器の取扱責任者やネットワーク責任者の仕事も行わなければ行けない点。
- ・個々のスキルの格差 情報モラルの定着 実習教材の選定
- ・どのような実習が生徒にとってプラスになるのか?
- ・効果的な情報モラルの指導法について、どのような手法があるか
- ・やはり免許外申請で何年も継続していることが、生徒にとって本当に充実した授業内容となっているのか。
- ・本校では情報科の免許を持っていない教員が免許外申請を行って授業を持っていますので、試行錯誤しながら指導してい

- ・科目の目標として、情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する能力と、効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する能力を身につけさせることです。
- ・定時制なので、ワープロ検定を中心に授業を展開している。
- ・リテラシー、ワープロ、講義
- ・全商検定に向けた取組。
- ・卒業後の進路割合が、進学<就職の傾向であるため、情報リテラシーを中心とした取組みに多くの時間を割いている。また、任意ではあるがワープロ検定や情報処理検定取得に向けた取組みを強く推奨している。また、ネットトラブル防止策の一環として、モラル教育に関わる単元を早期に(前倒しで)年度初めに実施している。
- ・基礎基本重視。文書作成と表計算が中心。
- ・問題解決に関する学習の重視

ます。

- ・適切な教材教具の活用。
- ・文書入力・表計算ソフトの操作・プレゼンテーションソフトの操作の基本をある程度他教科での学習にも使える程度にと考えると、もう少し時間が欲しい。本校では標準の2単位で開設。
- ・よくわからない機器やネットワーク環境の不具合。
- ・情報担当であることから、校内のコンピュータなどの管理も担当にさせられる。
- ・先生の減少により、担当できる教諭が少ないこと。
- ・実習教諭が情報の授業に配置されていないこと
- ・女子校だからなのかワードよりもエクセルを苦手とする生徒が多く、普通科なので、他にプログラミングなどの授業もないため、関心を理解させるのが難しい
- ・生徒の経済状況と情報リテラシーの発達度合いに家庭間の格差が生じていること。
- ・教科書の内容を主体的に学ぶ授業作りに毎年悩んでいる。
- ・情報モラルの、最新の情報を集めること
- ・ネットの規制 通信スピード ハードの不足
- ・空調設備など使用環境が整っていない。機器のリース間隔が8年と長い。予算等厳しいとは思いますが、出来るだけ新しい機器(OSやソフトウェアのバージョン含む)で学習を進めたい。
- ・担当者が一人なので自分一人のみの判断で授業を進めている
- ・TTの時間講師が見つからない
- ・教室環境の不備(空調等)。また PC のバージョンが古く生徒には新しいバージョンでの操作等を指導したい。リースパソコンの更新年の短縮を望む。
- ・TTの難しさ
- ・情報の授業は、私が商業との兼任、再任用教諭が数学との兼任、14時間を講師で行っております。情報の先生が少ないのが現状で、お願いする方がなかなかいないのが困っております。
- ・授業を最後まで飽きさせず受けさせるためにいつも工夫をしているが、上手くないのが現状。どのようにすれば良いか

- ・つも悩んでいる。
- ・免許外で指導していること
- ・技術指導における個人差。
- ・クラスによっては、IT 授業ではなく、1人で実施している。
- ・今年度から情報の授業をすることになり、どのような情報の授業を行えばよいのかがイメージできていない。また、自分自身が情報に関する知識をあまりわかっていない。
- ・少人数グループによる問題解決課題への取り組みが最適であると考えているが、いかんせん、教える側が手薄です。
- ・生徒が卒業した後で、情報を勉強しておいて良かったと思えるような授業を心掛けているが、現状では上手くいっていない。選択教科においても、個々のレベルの差からどうしても進度の遅い生徒に授業内容を合わせてしまうため、能力の高い生徒が伸び悩んでいる。
- ・単調な作業に飽きてしまう生徒がいるので、より興味のある授業にするために苦勞している。
- ・インターネットで検索することにはなれているが、入力技術に関してはほとんど習得してこないため、キーボードやマウス操作に慣れておらず、実習に時間がかかる場合がほとんどである。
- ・単なる副教科であると生徒にも同僚にも思われられないような取り組みをしていきたいと思っている。
- ・3年生のため、授業時間がもっとほしい。
- ・検定合格が目標設定されており、教科情報よりの授業の展開が困難である。
- ・研修会等に参加し、他校での実習例等も参考にしたいが、学校の現状、生徒の現状の差が大きいため、困難な場合が多い。
- ・一斉授業での学力差に対する指導方法
- ・機器のトラブル等、人員配置。
- ・できれば複数の先生で教えたい。
- ・情報専門教諭の不在により、3年間を通した一貫した指導ができないこと
- ・免許外で担当
- ・ソフト面とハード面の予算による設備不備問題等。
- ・ネットワークを利用した「発問」・「回答」・「アンケート」がうまくできていない ・生徒の能力を効率的に伸ばすことができない
- ・1年間2単位で行うためには内容の取捨選択が必要不可欠であるが、その際の選択基準について。
- ・パソコン機器の老朽化。
- ・PCが遅い。ネット環境のせい
- ・単位数の少なさ
- ・情報機器が多岐にわたっている中で、情報モラルを遵守する意識は高まっているが、行動を伴わせることができない。また、今後のプログラミング教育に不安がある。(あまり得意分野ではないため)

- ・情報の授業だけでなく、コンピュータ教室の管理や運用など主教科以外での仕事が多くなっている。
- ・教える内容が多岐にわたっているため、すべての知識を網羅して教えることが難しい。
- ・情報の科学という授業なので、情報の科学の授業をすれば良いと思っていたが、本校では商業系の検定を取得する授業だったようで、商業用語がたくさん出てくる資格取得の授業をいきなり担当しなければならなくなったこと。
- ・教科書の記載内容を「記載通り」に教えていると2単位の授業では全てを終わらせることは非常に難しい。学習指導要領の目標・ねらいに沿うように展開を工夫する必要がある。
- ・モラル・セキュリティ クラウドサーバについて 変化が激しく指導しにくい
- ・実習内容、評価 その他
- ・中学校のとき不登校だった生徒でもワープロの実技は習得している
- ・中学のときにも取り組んではいるが、個人差が大きい。
- ・座学時に、サブ教員の役割がほとんどないこと。
- ・情報モラルについて、事例などを用いて説明をするが、なかなか理解が深まらない。
- ・教科書に記載していることが、少し古く時代にあっていない
- ・①話を深めてしまうせい、なかなか教科書が進行しない。②学力の低い子は資料の作成すらできないほどスキルが低いため理解度の差が著しい(常用漢字やローマ字がわからない子がいる)
- ・上記関係で、時間に余裕がない。
- ・授業内容で、コンピュータやソフトウェアの使い方等の実習の割合をどのくらいにしたらよいのか、教室での座学やパソコン教室での実習を取り入れているが、実習時の授業にはどのような学習内容を取り入れたらよいのか等です。
- ・学校毎でパソコン教室の設定が異なること。
- ・情報機器の不足。環境の未整備。
- ・予算配分の関係上、仕方が無い事ですが、授業で使う機器が5年を越えるとトラブル(主にメモリ不足によるフリーズ等)が頻発するので、授業にならないこともある。また、セキュリティ上仕方が無いにしても、フィルタリングの規制があまりに厳しく、結果としてインターネットを利用した調べ学習に支障が出ていることも多々あり、困っています。
- ・セキュリティ等の内容を教える時間が余りとれない。
- ・1校に担当1人が基本の教科なので、相談したり、サポートをお願いしたりする相手がいない。

## 15. 研究会等で学んでみたい内容

- ・実際にビッグデータを処理させる授業があったら見てみたい
- ・ワークショップデザイン、インタラクティブなデジタル教材の作成手法、知財教育、アクティブラーニング型授業における評価手法
- ・すみませんが、そういう訳でとくにありません。
- ・他校での実施内容
- ・他校の先生方の授業実践を見学させて頂きたい。
- ・他校における教育実践について情報交換したい。また、大学の入試制度改革や科目名の変更など 最新の動向について知りたい。
- ・情報モラルの指導のあり方について
- ・著作権に対する態度を養う実践的な授業
- ・プログラミングをどのように指導していくか
- ・プログラミング等
- ・様々な学校での授業内容について知りたい。
- ・生徒が主体的に参加できる授業についての実践例。
- ・他校の取り組みと授業展開について
- ・プログラミング
- ・効果的な情報モラルの指導方法・携帯電話の使用に関する指導
- ・免許外申請が続く現状の打破について。
- ・北海道の教育現場へのタブレットの導入の可能性とアクティブラーニングについて
- ・スマートフォンなどの最先端技術及びその問題点。
- ・小中学校での学習内容との接続。上級学校との接続。学習の系統性。学習内容と発達段階との関連。
- ・プログラミングについて
- ・情報セキュリティと著作権部分の授業実践
- ・まだ参加できていないので、機会があれば参加をしていきたいです。
  - ・プログラミング、プログラミングの指導法
  - ・最新のことなら何でも
  - ・おもしろいソフトの活用法があれば学びたい。
  - ・情報モラルの現状や最近の情報関連犯罪について
  - ・教科書と実社会の接続
  - ・生徒に興味関心が持てる内容
  - ・底辺校での生徒指導を兼ねた授業方法。
  - ・教材について
  - ・技術指導方法。
  - ・授業に活かせるような内容を学べたらと思います。
  - ・他校の情報の授業でどのようなことをやっているのか、また生徒が興味関心をもてるようなことを学んでみたい。
  - ・考査の作成や他校での授業実践
  - ・将来において、プログラミング授業が必須と叫ばれているが、そのためのノウハウが圧倒的に足りていないので、これを機会に学んでみたい。
  - ・普通科情報の授業展開と内容。
- ・情報モラルの指導について
- ・日常継続的にできるアクティブラーニング実践
- ・アプリケーション開発に役立つアルゴリズムについて学びたい。
- ・プログラミング
- ・簡易サーバの構築など
- ・授業に生徒の興味・関心を持たせるための様々な工夫の仕方 最先端の情報機器等の授業への取り入れ方
- ・日々変化している情報分野での最低限学んでおかなければいけないの基礎的分野について
- ・授業の進め方等。
- ・プログラミングなど
- ・他校の実践を学びたい
- ・ネットワークの効率的な活用方法 ・達成度テストの「情報」の内容について
- ・他校の情報の授業を見たことがないので、他校ではどのような内容をどのように教えているのか見てみたい。また、どのような設備を用いて授業を行っているのかにも興味がある。
- ・他の学校の授業内容
- ・プログラミングの基礎
- ・校内のコンピュータの管理や生徒用 PC の運用方法など
- ・アクティブラーニングの実践例があれば教えていただきたい。
- ・プログラミングに関する授業
- ・アルゴリズムやモデル化とシミュレーションの実践例
- ・授業実践例、実習展開例、評価 他
- ・実習のプランニング等。
- ・授業をおこなうにあたってよりよいPC教室の使い方や整備方法。 アクティブラーニングを取り入れた授業展開例。
- ・プログラミング
  - ・免許外で担当しているので、情報科目の研究会で学んでみたい内容は特になし。
  - ・①プログラミングの授業への導入と評価について ②年間指導計画のモデル案(学力に応じてのパターン) ③問題解決学習の取り組みと評価について
  - ・学習単位よっての授業の実践例を学んでみたいです。
  - ・楽しく学べるアルゴリズムがあれば知りたいです。
  - ・プログラム言語「ドリトル」の授業
  - ・情報モラルや情報リテラシーの効果的な学習方法・アクティブラーニング。 検定に向けた学習と教科書の内容の両立。
  - ・最新のICT活用術(情報に限らず各教科でどのように利用しているのか等)と、モラル教育に役立つツール(教材)について。
  - ・iOS か android
  - ・サーバの構築などよりは、「情報の科学的理解」に関する部分を、どうやって生徒に興味を持たせながら教えるかの工夫などを考えてみたいです。もっとも、これと言って答えが出ないで終わる可能性も大ですが。

## 16. その他・ご意見等

- いつもお世話になっております。ありがとうございます。
- せっかくなのに失礼(無礼)かも知れませんが、道内の他の定時制課程において今回のようなアンケート調査を実施しても、中身のある具体的なものは出てこないかと思えます。
- 調査事業、お疲れ様です。
- 最近の情報部会は間口が広がったと感じています。久しぶりに参加してみたいという意欲が湧いてきました。今後ともよろしく願い致します。
- なぜ北海道では情報の教員採用試験を実施しないのか。また、隠れ情報免許取得者が教科情報を持たないなら、取得している意味がない。何の説得力もない免許外申請による仮の情報科教員が増えるだけである。本当に生徒にとって意味があるのか。
- 各学校で評価をどうしているのかを知りたいと思いました。
- この1,2年タイミングが合わず研修会に参加できていません。小規模普通科高校での情報科の立ち位置について模索しつつ、実践を積み重ねています。公立学校における情報科教育というものの形をいまいち捉え切れていないのでこのような勉強の機会があることはとても助かります。
- 部活動との関連でなかなか研究会にもでれない。いろいろな学校の取り組みとかの情報は欲しいとは思っている。
- アンケートを含め色々ありがとうございます。毎年このアンケート結果を見させていただいており力を貰っております。大変ですが、これからもよろしくお願い致します。
- 機会があれば研究会に参加したいです。
- 開設学年ですがコースによって違い、進学コースが1年と3年、特別進学コースと難関選抜コースが1年と2年という形になっています。
- なかなか、地域的にも札幌近郊開催の会議等に出席が難しいのが現状です。また、毎年、1月に行われる高教研も部活の大会が1月中旬にあるために参加できていません。
- 情報科担当教員の他業務の省力化(情報に関わる関係の仕事の削減)の推進の要望をしてほしい。
- 正月明けの研究会楽しみですが、あまり参加できなくて申し訳ないです。
- 質問4にあります、分割履修は可能なのですか？本校では、3年前まで2・3年の履修でしたが、局からの指導により分割履修ができなくなりました。
- このようなアンケートを実施する場合は、この資料が今後重要な資料として活用される可能性もあるため、「まずはやってみてから」ではなく、学校システムに係わる内容にも重なるので、少なくとも他校の学校情報を精査し準備に時間をかけ、場合により学校ごとに質問項目を分ける等の配慮が重要だと思われる。具体的には貴校の状況を中心に質問項目をおくのではなく、本校のような定時制による単位制高校等の状況もふまえた上で質問を設ける必要性を感じる。解答のしようがない質問があった。調査方法の説明が不親切でありアンケートページにたどり着くまで時間がかかった。また、ウィンドウを複数立ち上げてもないのに「回答する」ボタンを押しても送信されなかったり等不具合もあり。そのたびに回答し直し。そういう事です。
- これからプログラミング教育が進んでいくといわれているため、研修に参加したいと思うが、移動に時間がかかり難しいことが多いと感じている。
- 情報専任教員の採用がなく、受験科目ではないため教科として中途半端な状態が悩ましい。
- ①私は商業科と情報科を担当していますが、今後情報科を主にしていくことも検討しています。その場合、どの程度のスキルが必要であるのかが知りたいです。②メーリングリストの連絡先を変更したいのですが、どのような手続きを行えば良いかを教えてください。



#### 4-3-4 全国情報教育研究大会参加報告

#### 4-4-1 平成28年度 一般会計予算

##### (1) 収入の部

科目	平成27年度 予算額	平成27年度 決算額	平成28年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	250,000	250,146	250,000	0	
本部交付金	228,430	64,950	228,430	0	
雑収入	0	51	0	0	
合計	478,430	315,147	478,430	0	

##### (2) 支出の部

科目	平成27年度 予算額	平成27年度 決算額	平成28年度 予算額	増減(△)	適用
講師旅費・謝金	180,000	0	180,000	0	謝礼・交通費
事業費	50,000	1,944	50,000	0	ワークショップ企画
会場費	0	0	0	0	札幌北高校彩風館
運営費	50,000	13,550	50,000	0	記録メディア等
研究調査費	50,000	0	50,000	0	研究資料・書籍
備品運搬費	30,000	0	30,000	0	機材運搬
事務通信費	10,000	2,542	10,000	0	文書郵送費
備品購入費	25,000	0	25,000	0	機材購入
予備費	83,430	0	83,430	0	雑費
合計	478,430	18,036	478,430	0	

#### 4-4-2 平成28年度 特別会計予算

##### (1) 収入の部

科目	平成27年度 予算額	平成27年度 決算額	平成28年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	200,000	229,567	200,000	0	
企業広告協賛金	140,000	120,000	130,000	△10,000	
雑収入	0	0	0	0	
合計	340,000	349,567	330,000	0	

##### (2) 支出の部

科目	平成27年度 予算額	平成27年度 決算額	平成28年度 予算額	増減(△)	適用
運営費	80,000	25,329	80,000	0	
役員費	140,000	75,238	130,000	△10,000	
積立会計	100,000	100,000	100,000	0	
予備費	20,000	0	20,000	0	
合計	340,000	200,567	330,000	△10,000	

#### 4-4-3 平成28年度 積立会計予算

##### (1) 収入の部

科目	平成27年度 予算額	平成27年度 決算額	平成28年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	70,000	158,640	150,000	80,000	
特別会計より	100,000	100,000	100,000	0	
雑収入	0	0	0	0	
合計	170,000	258,640	250,000	80,000	

#### 4-4-4 平成28年度 一般会計中間報告

##### (1) 収入の部

科目	平成28年度 予算額	中間報告	増減(△)	適用
繰越金	250,000	297,111	47,111	
本部交付金	228,430	237,260	8,830	調査研究費
雑収入	0	47	47	利息
合計	478,430	534,418	55,988	

##### (2) 支出の部

科目	平成28年度 予算額	中間報告	残額	適用
講師旅費・謝金	180,000	0	180,000	
事業費	50,000	6,171	43,829	サーバ利用料
会場費	0	0	0	
運営費	50,000	1,680	48,320	役員会飲物代
研究調査費	50,000	0	50,000	
備品運搬費	30,000	0	30,000	
事務通信費	10,000	3,064	6,936	振込手数料、郵送料
備品購入費	25,000	0	25,000	
予備費	83,430	0	83,430	
合計	478,430	10,915	467,515	

#### 4-4-5 平成28年度 特別会計中間報告

##### (1) 収入の部

科目	平成28年度 予算額	中間報告	増減(△)	適用
繰越金	200,000	149,000	△51,000	
企業広告協賛金	130,000	10,000	△120,000	
雑収入	0	0	0	
合計	330,000	159,000	△171,000	

##### (2) 支出の部

科目	平成28年度 予算額	中間報告	残額	適用
運営費	80,000	91,595	△11,595	フライヤー、フラットファイル他
役務費	130,000	98,316	31,684	役員旅費
積立会計	100,000	0	100,000	
予備費	20,000	0	20,000	
合計	330,000	189,911	140,089	

#### 4-4-6 平成28年度 積立会計中間報告

##### (1) 収入の部

科目	平成28年度 予算額	中間報告	増減(△)	適用
繰越金	150,000	151,924	1,924	
特別会計より	100,000	0	△100,000	
雑収入	0	0	0	
合計	250,000	151,924	△98,076	

##### (2) 支出の部

科目	平成28年度 予算額	中間報告	残額	適用
運営費	—	0	—	
役務費	—	62,300	—	全高情研派遣旅費
事務通信費	—	432	—	振込手数料
予備費	—	0	—	
合計	250,000	62,732	187,268	

## 4-5 平成29年度の研究テーマ

### 平成29(2017)年度研究テーマ趣旨説明文

情報科は誕生してから今に至るまで、混沌の中を前に少しずつ進んできたといえます。草創期には「とにかくやってみる (Let's Begin Anyway!)」ことが必要でした。「何を教えるのか」は存在していましたが、「誰がどう教えるのか」は各々の学校に、各々の教員に委ねられていました。その結果、情報科を担当することを受動的に受け入れざるを得ない教員が少なからず生まれました。このことをただ単純に不幸と感じる人もいましたが、「何をどう教えればよいのかわからない」と深く悩む教員も多かったのです。

このような混沌を招いた理由は、いくつか考えられます。一つ目は、他の教科と違い情報科には実践の蓄積が少ないため、適当な手本をどこかに、誰かに見出せなかったことです。情報科では「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」という3つの能力をバランスよく育成することが求められています。しかしこのことが、学校の実情(生徒・教員・学習環境等)を鑑みながら、これらを実際に具体的な授業としてデザインしなければならないことは多くの教員を悩ませました。

そもそも情報科の学習は、情報の収集に始まり分析や発信までを総合的に学ぶことや、教科横断的に他教科と連携を進められることなどが特色です。さまざまな見方や考え方から学習内容を捉えることができ、授業デザインに対して高い自由度を担保しています。しかし、授業のデザインに悩む教員にとってこの自由さは、曖昧さでもあり捉えどころのなさでもあります。このことが前述の、「何をどう教えればよいのか(正解が)わからない」ということに繋がっていると考えられます。つまり、本来は情報科の強みであるはずの学習の内容や方法の自由さが、逆に足かせになってしまっていたのです。

二つ目は、情報科の意義への無理解です。情報科の本来の目的は、情報科以外の大多数の教員には未だに正しく理解されていません。「情報活用の実践力」を「コンピュータやアプリケーションソフトウェアの操作方法の習得」と同義に捉えられる傾向が、根強く存在していることからそれがいえます。また、既存の職業科による、コンピュータ教育や資格取得を主眼とした授業と混同されることもあります。そのような授業を行う科目と、全ての高校生を対象に必修科目としてある情報科との、存在意義についての相違が理解されていません。

さらに三つ目は、情報通信技術の加速度的な進展によるものです。想像できないほどの速さで改良開発される情報技術のすべてに、私たちが対応しきることはとても難しいことです。そうした状況の中で、教えるべき内容が大きく更新されたり、陳腐化したりすることは日常茶飯事として起こり続けています。この意味では、混沌は私たちの内部だけにではなく、私たちを取り巻く環境の中にも存在しているとさえいえます。

このような混沌の中においても私たちは、授業デザインとその改善を繰り返し、前に進んできました。その間にはいくつかの、混沌の状況を打ち破るための契機となりえるのではないかとという節目もありました。特に平成25年度に「情報A」「情報B」「情報C」の3科目が「社会と情報」「情報の科学」の2科目構成に見直されたことは、現在に続く大きな転換点となったといえるでしょう。そして今再び、学習指導要領の改訂という新たな契機を迎えようとしています。

高校における直接的な改訂ではありませんが、小学校においてプログラミング教育が必修化されることは大きなポイントであるといえます。もちろんここでの「プログラミング教育」の目的は、あくまで「プログラミング的な思考の育成」であって、コードを直接書かせてプログラミングを学ばせることまでは想定していません。

特別な時間を設けて行うというよりも、総合的な学習の時間や算数、理科など既存の教科科目の中でその思考を養おうともしています。

高校の情報科でも、プログラミングを学ぶことの目的は、単にアプリケーションソフトウェアの作成ができるようになることだけではありません。

それは例えば、さまざまな目的を実現するための手順を具体化することや、複雑な考えをシンプルなルールの組み合わせによって理解しやすくする能力を身に付けることなどです。

特に問題解決学習において、プログラミングは目的を達成するにはいくつもの方法があることを理解し、実際にプログラムを作成するという経験を通して主体的に物事を考える力や意欲を身につけることにとても役に立ちます。

私たちは一昨年の研究テーマの中で、不易流行の重要性に言及しました。

不易流行とは、いつまでも変化しない本質的なものを大切にしながら、新しい変化の積み重ねをも主体的に取り入れていくことです。

新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であるともいえます。

私たちにとっても、生徒にとっても、「何が必要なのか、なぜ必要なのか」といった根源的な疑問を余念なく突き止めることがとても大切です。

情報科の学びの中には、そうした探究的な活動を誘う魅力があります。

生徒が主体的に学ぶ態度を身につけ、学んだことを社会のさまざまな場面で活かし、誰かの役に立っていると実感できる原動力が、その魅力の中にあります。

学校における学びは「目標の設定」→「授業デザイン」→「実践」→「評価」→「フィードバック」の繰り返しです。

そしてここで、あらためて情報部会 15 年間の研究テーマを振り返ると、私たちの歩みはこの学びの繰り返しをまさに 3 周回してきたことが分かります。

その過程の中で私たちは、研究テーマが掲げた目標には直ちに至らないまでも、繰り返すことでスパイラルな成長を期待してきました。

情報科が混沌から脱け出し、社会からたとえ体系的な学問として認知されるようになったとしても、この上向きの循環をこれからも絶えず持続させていかなければなりません。

新学習指導要領の動向に常に意識を傾けながら、私たちはこれから生きる生徒を見守っていきましょう。

その上で、これまでの経験のみばかりに縛られるのではなく、その時代の要請に合った情報科の目的を明らかにしながら注ぐ日々の努力は、情報科を新たに創り直すことと同義といえます。

情報部会の 16 年目はまさに、心新に未来に向けた再起動のボタンを押す時なのです。

以上を研究テーマの趣旨として、平成 29(2017)年度のテーマを次のように提案します。

## 情報科リポート (新たな気持ちで授業づくりに向き合おう)

#### 4-6-1 研究紀要

情報部会では下記により、次年度に向けての研究紀要の執筆者を募集します。執筆は個人によるものでもグループによるものでもかまいません。日頃の研究の成果を発表する場としてご利用いただきたいと思っております。

#### 平成27年度北海道高等学校教育研究会研究紀要執筆者の募集について

平成28年3月に発行される本研究会「研究紀要第53号」の教科部会「情報」の執筆者を募集します。募集する研究論文は、高教研の研究主題である、

「未来を担う人を育む北海道高等学校教育の創造」

に沿ったもので、以下の要件を満たしているものです。

(要件)

- ・執筆者は高教研の会員に限る。
- ・個人的でない内容である。
- ・単年度で完結した研究である。
- ・高校教育に関わる研究である。
- ・数年度のスパンにおいて、特定校・特定個人に偏らない。
- ・文字数は25,000文字以内(横25文字×1,000行)

個人もしくはグループで執筆を希望する会員は、研究紀要募集担当(札幌新川高校 杉本)にご連絡下さい。choice メーリングリストでも募集案内を流します。執筆に関しての質問もこちらで承ります。

執筆の希望者が複数出た場合は役員会で執筆者の選考を行います。

#### 4-6-2 キャラバン研究会

他教科と比べて歴史の浅い情報科が、積み重ねた実践を互いに共有し合うことで、生徒の学習意欲を高めながら全道各地で質の高い教育活動ができることを目指し、今年度に引き続き、キャラバン研究会を実施します。次年度は、実施実績の少ない各地区管内での実施を努力目標とします。

キャラバン研究会の開催についてのお問い合わせは事務局(札幌新川高校 杉本)まで。

#### 4-6-3 高教研情報部会アンケート

北海道内の情報科と担当する先生方が置かれている状況を把握・共有し、高教研情報部会としての活動をより有意義で質が高い先生方のニーズに合ったものにするために、次年度もアンケートを実施します。なお、前回のアンケートでいただいたご意見を基に、アンケート設問や結果の報告などについての検討・改善を加えます。

#### 4-6-4 全国高等学校情報教育研究会全国大会参加派遣

北海道の情報科教育の質をより高いものにするを目的として、高教研情報部会会員の、全国高等学校情報教育研究会全国大会への参加派遣を行います。

次年度も、派遣人数は原則1名とし、choiceウェブページ上およびchoiceメーリングリストで告知し、希望者を募ります。派遣者は高教研情報部会総会での報告義務があります。

平成28年度第9回全国高等学校情報教育研究会全国大会は8月 8 日(月)、9 日(火)の2日間日程で神奈川県で開催されます。詳細は Web でご確認ください。

<http://www.zenkojoken.jp/09kanagawa/>

#### 4-7-1 平成29年度 一般会計予算案

##### (1) 収入の部

科目	平成27年度 決算額	平成28年度 予算額	平成29年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	250,146	250,000	250,000	0	
本部交付金	64,950	228,430	228,430	0	
雑収入	51	0	0	0	
合計	315,147	478,430	478,430	478,430	

##### (2) 支出の部

科目	平成27年度 決算額	平成28年度 予算額	平成29年度 予算額	増減(△)	適用
講師旅費・謝金	0	180,000	180,000	0	謝礼・交通費
事業費	1,944	50,000	50,000	0	ワークショップ企画
会場費	0	0	100,000	100,000	会場未定
運営費	13,550	50,000	30,000	△20,000	記録メディア等
研究調査費	0	50,000	30,000	△20,000	研究資料・書籍
備品運搬費	0	30,000	10,000	△20,000	機材運搬
事務通信費	2,542	10,000	10,000	0	文書郵送費
備品購入費	0	25,000	15,000	△10,000	機材購入
予備費	0	83,430	53,430	△30,000	雑費
合計	18,036	478,430	478,430	0	

#### 4-7-2 平成29年度 特別会計予算案

##### (1) 収入の部

科目	平成27年度 決算額	平成28年度 予算額	平成29年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	229,567	200,000	60,000	△140,000	
企業広告協賛金	120,000	130,000	100,000	△30,000	
雑収入	0	0	0	0	
合計	349,567	330,000	160,000	△170,000	

##### (2) 支出の部

科目	平成27年度 決算額	平成28年度 予算額	平成29年度 予算額	増減(△)	適用
運営費	25,329	80,000	60,000	0	
役務費	75,238	130,000	80,000	△50,000	
積立会計	100,000	100,000	0	△100,000	
予備費	0	20,000	20,000	0	
合計	200,567	330,000	160,000	△170,000	

#### 4-7-3 平成29年度 積立会計予算案

##### (1) 収入の部

科目	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額	平成28年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	58,640	70,000	150,000	80,000	
特別会計より	100,000	100,000	100,000	0	
雑収入	0	0	0	0	
合計	158,640	170,000	250,000	80,000	

MEMO



## 5 その他

---

### 5-1 北海道高等学校教育研究会 情報部会規約

#### 第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、北海道高等学校教育研究会情報部会と称する。

(目的)

第2条 本会は、北海道高等学校教育研究会の目的に準じ、共通教科ならびに専門教科「情報」の教育（以下、情報教育と称する）に関する事項を研究し、会員相互の研修と識見向上につとめ、情報教育の振興を図る。

(会員)

第3条 本会の会員は、北海道高等学校教育研究会の会員であつて、情報教育を研究する者、ならびに情報教育の趣旨を生かした教育活動を行おうとする者をもって構成する。

#### 第2章 事 業

(事業)

第4条 本会の目的を達成するため、情報教育に関する研究をとおして下記の事業（北海道高等学校教育研究会会則第4条による）を行なう。

- (1) 研究会の開催
- (2) 機関紙への寄稿
- (3) 講習会、講演会の開催
- (4) その他本会の目的達成に必要と認められる事業

#### 第3章 組 織

(役員と任務)

第5条 本会の役員と任務は、次の通りとする。

- (1) 部会長（1名 本会の運営を統括し、本部役員となる。）
- (2) 副部会長（2名 部会長を補佐し、部会長事故あるときは職務を代行する。）
- (3) 監事（2名 本会の業務及び会計を監査する。）
- (4) 幹事（若干名 本会の会務に参与する。）
- (5) 事務局長（1名 本会の事務を統括し、本部との連携を図る。）

(役員を選出と任期)

第6条 本会の役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 部会長は、北海道高等学校教育研究会情報部会加入の校長とする。
  - (2) 副部会長は、北海道高等学校教育研究会情報部会加入の校長、副校長または教頭とし、部会長が委嘱する。
  - (3) 監事は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
  - (4) 幹事は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
  - (5) 事務局長は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
- 2 役員任期は1年とし、再任を妨げない。
  - 3 情報部会総会において、役員を報告する。

(事務局)

第7条 本会の事務局は、原則として幹事によって構成される。

- 2 必要に応じて、近隣の本会会員をその構成員とすることができる。

#### 第4章 会 議

(本部役員会)

第8条 本部の役員会（年3回）には、部会長と事務局長が情報部会を代表し出席する。

(役員会)

第9条 役員会は、部会長が召集し、次の事項を審議する。

- (1) 事業報告及び収支決算
- (2) 監事による監査報告
- (3) 事業計画及び、収支予算
- (4) 役員を選出
- (5) その他、必要とする事項

2 臨時役員会は、必要に応じて部会長が召集する。

(総会)

第10条 総会は、北海道高等学校教育研究大会の教科別集会において開催し、会の規約や業務、会計に関することなどについて審議する。

## 第5章 会 計

(経費)

第11条 本会の経費は、北海道高等学校教育研究会からの交付金、及びその他の収入による。

(書記・会計)

第12条 書記・会計に関する業務は、事務局員が担当する。

(会計年度)

第13条 本会の会計年度は、毎年4月1日より始まり翌年3月31日までとする。

## 第6章 そ の 他

(規約の改廃)

第14条 規約の改廃は、役員会で審議し、総会で承認するものとする。

(細則)

第15条 本会に必要な細則は、別に定める。

## 附 則

- (1) この規約は、平成15年1月10日より施行する。
- (2) 平成16年1月9日第6条(2)を改正。
- (3) 平成24年1月12日 第2条、第3条、第6条(2)の一部を改正。
- (4) 平成25年1月10日 第9条を改定。

## 5-2 参加者名簿

No.	支 部	学 校	氏 名	参加	ワークショップ <sup>o</sup>	懇親会
1	石狩	札幌北	渡邊 周一	副部長		
2	石狩	札幌北	奥村 稔	幹事	ファシリテータ1	○
3	石狩	札幌北	前川 繁信	×	-	-
4	石狩	札幌啓成	東原 昭博	○	3	×
5	石狩	札幌厚別	鈴木 崇令	○	3	×
6	石狩	札幌あすかぜ	川村 雅人	×	-	-
7	石狩	札幌東豊	毛内 顯史	部長		○
8	石狩	札幌稲雲	堀井 圭司	×	-	-
9	石狩	札幌英藍	梅田 充	幹事	ファシリテータ3	○
10	石狩	札幌英藍	鶴間 伸一	幹事	運営	○
11	石狩	野幌	福田 通康	○	1	○
12	石狩	石狩翔陽	木村 久	○	3	×
13	石狩	石狩南	澤田 真泰	○	3	×
14	石狩	札幌旭丘	高瀬 敏樹	×	-	-
15	石狩	札幌旭丘	指田あすか	○	3	×
16	石狩	札幌旭丘	溝口 義一	○	1	×
17	石狩	札幌旭丘	高木 裕司	×	-	-
18	石狩	札幌藻岩	高木 昭信	×	-	-
19	石狩	札幌清田	後藤 信	×	-	-
20	石狩	札幌新川	杉本 式史	幹事	2	○
21	石狩	札幌平岸	高塩 洋志	○	3	×
22	石狩	札幌大通	佐々木大輔	×	-	-
23	石狩	札幌大通	天野 将寿	○	1	×
24	石狩	札幌開成中等教育	澤谷 明憲	×	-	-
25	石狩	北海	岡部 征和	×	-	-
26	石狩	札幌大谷	今井 豊章	×	-	-
27	石狩	札幌静修	石井 翼	○	3	○
28	石狩	札幌北斗	古澤 正三	幹事	運営	○
29	石狩	札幌山の手	日光 美紀	○	1	○
30	石狩	札幌山の手	長谷川秀博	×	-	-
31	石狩	教育庁	加藤 誠	×	-	-
32	石狩	石狩翔陽	中根 孝浩	○	1	×
33	石狩	北広島西	梅田 優子	○	3	○
34	石狩	札幌西	鬼柳 亜文	○	2	×
35	石狩	北海道情報専門学校	指田 久満	○	3	○
36	道南	函館西	岩谷 義久	○	1	○
37	後志	小樽潮陵	佐々木 寛	幹事	2	○
38	後志	小樽桜陽	林 誠	○	3	×
39	後志	倶知安	津端 公彦	幹事	運営	○
40	後志	北照	深川 優菜			
41	後志	高等聾	草間由紀子	○	1	△
42	空知	滝川	池田 弘樹	幹事	ファシリテータ2	○
43	道北	旭川北	帰山 悟	×	-	-
44	道北	旭川工業	古屋 順一	副部長		×
45	道北	上富良野	小玉 昌宏	○	1	×
46	道北	旭川藤女子	鎌田 亮樹	幹事	3	×
47	オホーツク	滝上	田中 教之	○	3	○
48	釧根	釧路商業	宮川 尊充	○	3	×
49	釧根	釧路江南	小湊 秀子	○	2	○
50	十勝	帯広緑陽	前田健太郎	幹事	1	○
51	十勝	鹿追	金谷梅太郎	幹事	運営	○

No.	支部	学校	氏名	参加	ワークショップ	懇親会
52	十勝	白樺学園	宮下 真和	○	2	×
53	日胆	伊達	伊藤 崇	幹事	運営	○
54	日胆	白老東	風上 拓哉	○	1	×
55	日胆	苫小牧高等商業	佐藤雄之介	○	1	×

### 5-3 懇親会のご案内

## 高教研研究集会情報部会「大懇親会」

今年も恒例の大懇親会を開催致します。ぜひ、奮ってご参加ください。

日時 平成29年1月12日(木) 18:00~20:00

会費 3,500円(飲み放題・税込)

場所 うおや一丁札幌駅店  
札幌市北区北6条西1丁目(JR高架下)  
電話(011)232-0022



**【全体の構成について】**

質問 1 今年度は基調講演を実施せず、全体をワークショップ形式にしましたが、いかがでしたか。  
 不満  やや不満  特に何も  やや満足  満足

質問 2 基調講演の実施についてご意見があればお書きください

**【ワークショップ】**

質問 3 テーマの設定についてはいかがでしたか。  
 不満  やや不満  特に何も  やや満足  満足

質問 4 内容は、あなたの期待にできていましたか。  
 不満  やや不満  特に何も  やや満足  満足

質問 5 内容の難易は、あなたにとって適当でしたか。  
 難しい  やや難しい  適当  やや簡単  簡単

質問 6 今回のワークショップは今後の授業や、あなた自身の研修に役立ちそうですか（複数回答可）  
 まったく見通しが付かない。  
 漠然としていて、まだ具体的なイメージが湧かない。  
 何となく見えそう。  
 方向性が見えてきた気がする。  
 具体的に何かを試してみようと思う。

質問 7 今回のワークショップについての感想・ご意見をお聞かせください

質問 8 ワークショップの内容について、どのようなものを期待しますか（複数回答可）  
 教科書にある内容を、授業としてどのように扱うか。  
 新しいオリジナルの授業を構想するためのもの。  
 先進的な技術を易しく解きほぐすもの。  
 情報社会を積極的に理解するためのもの。

- ( ) アクティブ・ラーニングに関するもの。
- ( ) 授業内容の改善につながる評価の考え方。

質問9 ワークショップの内容に上記以外で期待するものがあればお書きください

(ウラ面に続く)

質問 10 その他、ワークショップについてお気づきの点がありましたら、ご記入ください。

**【企業展示】**

質問 11 企業展示について、感想等お気づきの点がありましたら、ご記入ください。

**【総会】**

質問 12 総会についてお気づきの点がありましたら、ご記入ください。

**【その他】**

質問 13 全体を通してお気づきの点、ご意見等がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

